

第22回

Carving Modeling Exhibition

彫 塑 展



筑波大学
University of Tsukuba

芸術専門学群・博士課程芸術専攻・芸術学学位プログラム

ご挨拶

筑波大学彫塑展は、芸術専門学群および大学院の彫塑領域の学生が一年間の学びと研究の成果を、それぞれの立場から問う展覧会です。本展は教育の一環として、展覧会開催に関わる企画・運営などの実務を経験することも目的とし、平成11年から毎年開催してきました。

令和2年度は、芸術分野においてもコロナ禍による影響が大きく、様々な制限のもとでの活動を余儀無くされた一年でした。第22回展を迎える今回は、これまでと同様の開催を目指して参りましたが、昨今の状況に鑑み、

「学内展示+オンライン」の形式をとり、関連展として有志の小品を湯島聖堂に並べるかたちとなりました。展示の様子は筑波大学彫塑教室のWebサイトでも公開しております。ご高覧のうえ、忌憚の無いご批評・ご意見を賜りますれば幸いです。

末筆ではございますが、この展覧会のためにご支援ご協力を賜りました皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年3月
筑波大学芸術系彫塑担当教員一同

—第22回筑波大学彫塑展—

会期 2021年3月1日(月)~3月5日(金) 10:00~17:00
(初日は13:00から・最終日は16:00まで)

会場 筑波大学 総合研究棟D 1Fギャラリー及び
6A棟2階エントランス

— 関連展示 —

会期 2021年3月7日(日)~3月28日(日)

会場 湯島聖堂大成殿

レセプション、ギャラリートーク、タッチツアー等、
本年は展覧会イベントの実施を見送る判断となりました

第22回筑波大学彫塑展WEB公開2021年3月3日(水)~

<https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/chouso/>



<後援> 公益財団法人斯文会



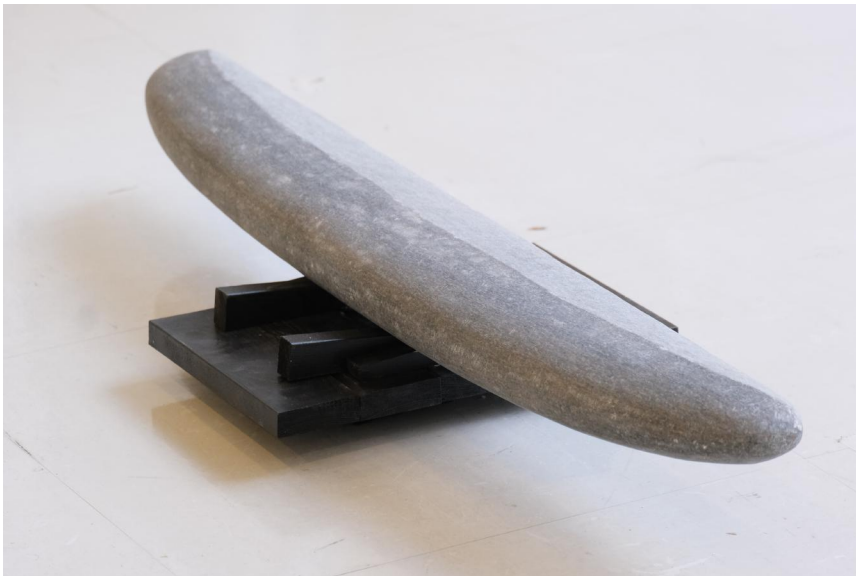
学群 3 年

風 / Wind

須恵三樹 SUE Mitsuki

H.10×W.90×D.20(cm) 黒御影石

物質に内包される空間。



学群 4 年

組織培養 / Tissue Culture

伊藤 真生 ITO Mao



H.55×W.230×D.100(cm)

石膏、アクリル塗料、乾性油、スチロール

目にしているものは何でしょうか。

学群 4 年



布をまとう女性 / Woman wearing cloth

木崎 由実子 KIZAKI Yumiko

H.200 × W.80 × D.80(cm) 樟

衣服と肉体の細かな揺らぎを見逃さないよう、丁寧に形を追いました。優しく。柔らかく。しかし、強い芯を持っている。これが私の理想とする人物像です。

東極点 / East Pole

佐久間 若菜 SAKUMA Wakana

H.45×W.73×D.45(cm) 黒御影石

石の表面にこれまで訪れた思い出の場所を彫刻した。この作品を見ると、その時の情景が思い浮かぶ。



学群 4 年



あたまの住人 /
Resident in the head

佐藤 彩良 SATOU Saira

H.70×W.40×D.32(cm) テラコッタ

頭にシマエナガが住み着いた女の子。人間の頭部と小鳥の体の自然な融合を意識して制作しました。

学群 4 年

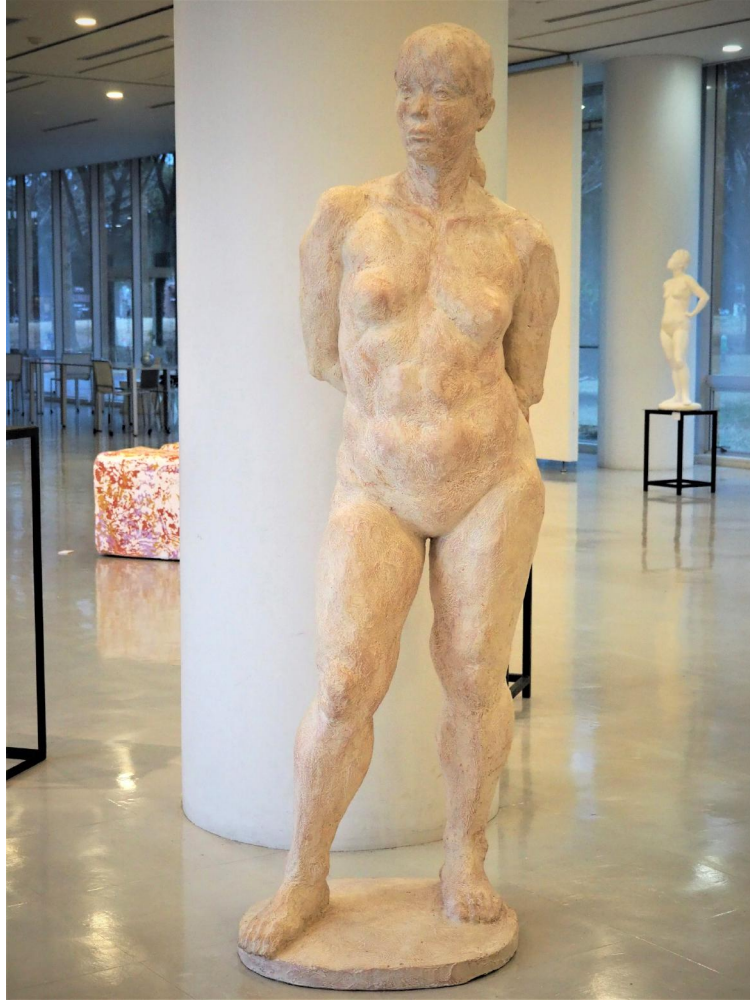
山景 / Landscape

野口 珠希 NOGUCHI Tamaki

H.200×W.230×D.90(cm) 石、鉄、ワイヤー、真鍮

石が宙に浮くということは、不思議な感覚をもたらす。重力に反して浮遊している石への違和感、恐怖、そして好奇心。





据える / Decide

黒田 雅大 KURODA Masahiro

H.185 × W.60 × D.55(cm) 石膏

モデルさんを元に女性が佇んでいる様子を制作しました。時間をかけて鑑賞することで良さを発見できるような彫刻を作りたいと考えています。



道 / Road

本多 史弥 FUMIYA Honda

H.183×W.75×D.53(cm) 石膏

自分が歩んできた道とこれから進む道をみつめなおし、自分にとっての節目として制作した作品です。



元水泳部の男 / The man who was a swimmer

古場 勇士 KOBA Yushi

H.181 × W.70 × D.56(cm) 樟

2020年度は東京オリンピックが開催される年だったが、世界規模の新型コロナウイルスの流行により開催が見送られた。この作品の制作を通して、自分自身の在り方に対する問いが生まれた。

頂 / Apex

圖子 綾人 ZUSHI Ayato

H.80×W.40×D.200(cm) 乾漆

ディノニクスは中生代白亜紀前期の北アメリカに生息した獣脚類恐竜である。後肢に備えた一对の発達した鉤爪が特徴で、狩り際にはこの鉤爪で斬りつけて獲物を仕留めていたと考えられている。





ヨルノコエ / Voice of the night

最上 健 MOGAMI Ken

H.120 × W.30 × D.45(cm) 石膏

大変な一年だった。



ハグ / Hug

森山 円 MORIYAMA Madoka

H.90 × W.75 × D.35(cm) 樟

動物や人との関わりの中から感じる、彼らの魅力
や私の思いを、表現しようと試みています。



朧雲を纏う / What is covered with vague clouds

鹿山 卓耶 KAYAMA Takuya

H.84 × W.30 × D.29(cm) 榧、カシュー塗料、胡粉

丸太材のもつ確かな存在感に、ある種の憧れのような思いと、もどかしさを覚えます。木材を目の前にして浮かんできた、モヤモヤした不確かなイメージを知るために、手彫りという行為によって、木材との問答を繰り返しています。



待つ / WAIT FOR

沢辺 裕子 SAWABE Hiroko

H.70×W.50×D.54(cm) 樟

丸くて複雑さのある形をつくりたいと思いました。
ゆるやかな曲面がつくる膨らみの感じと、量のせ
めぎ合いが生む凹みと皺の感じを追究しました。
この童子は、ずっと待っています。手の中の大切
な何かを護りながら、それに護られながら・・・

群居 / GREGARIOUS

羽室 陽森 HAMURO Yoshin

H.40×W.40×D.40(cm) ブロンズ、御影石

ゆらゆらゆら

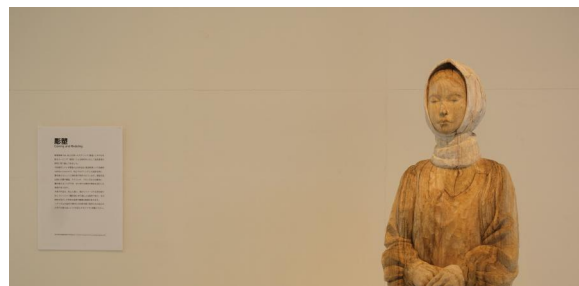
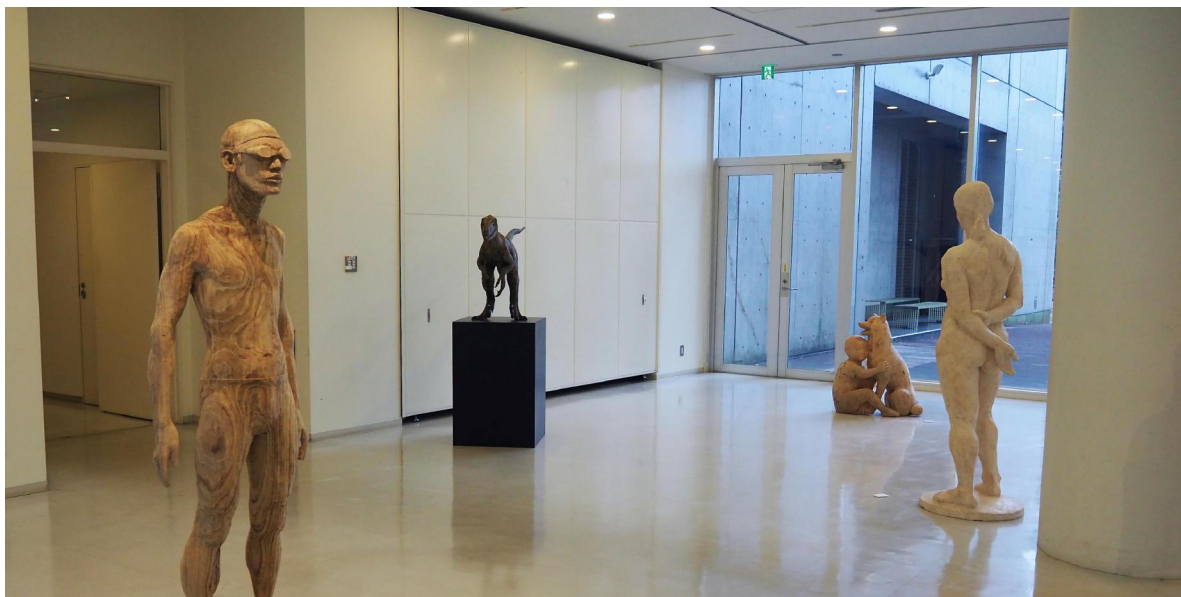
空を見上げてユ～ラユラ

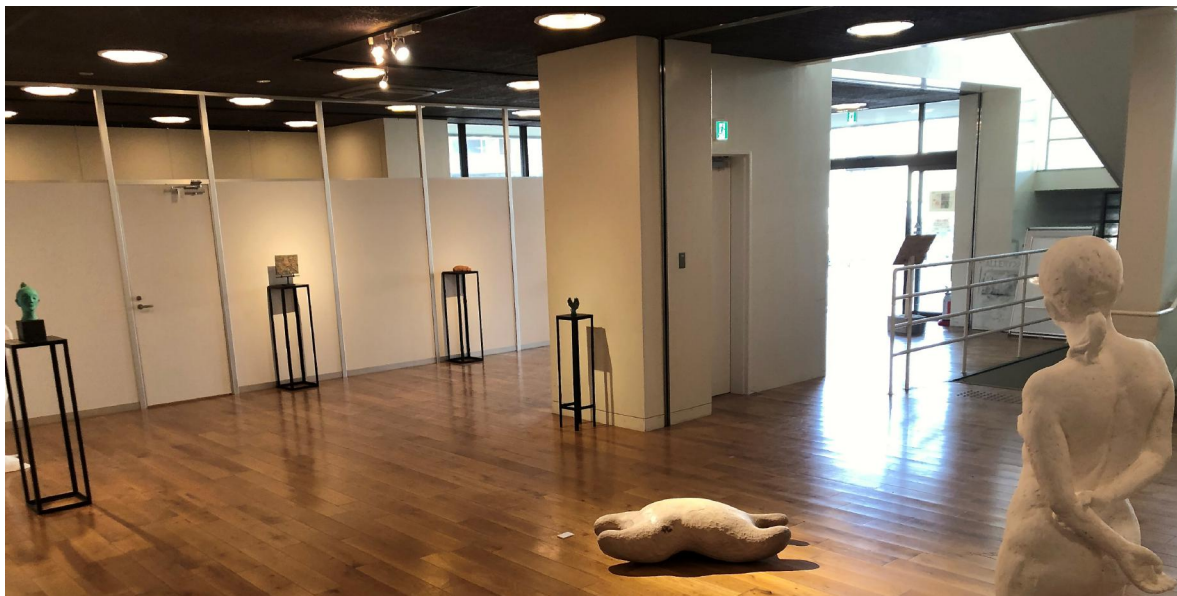
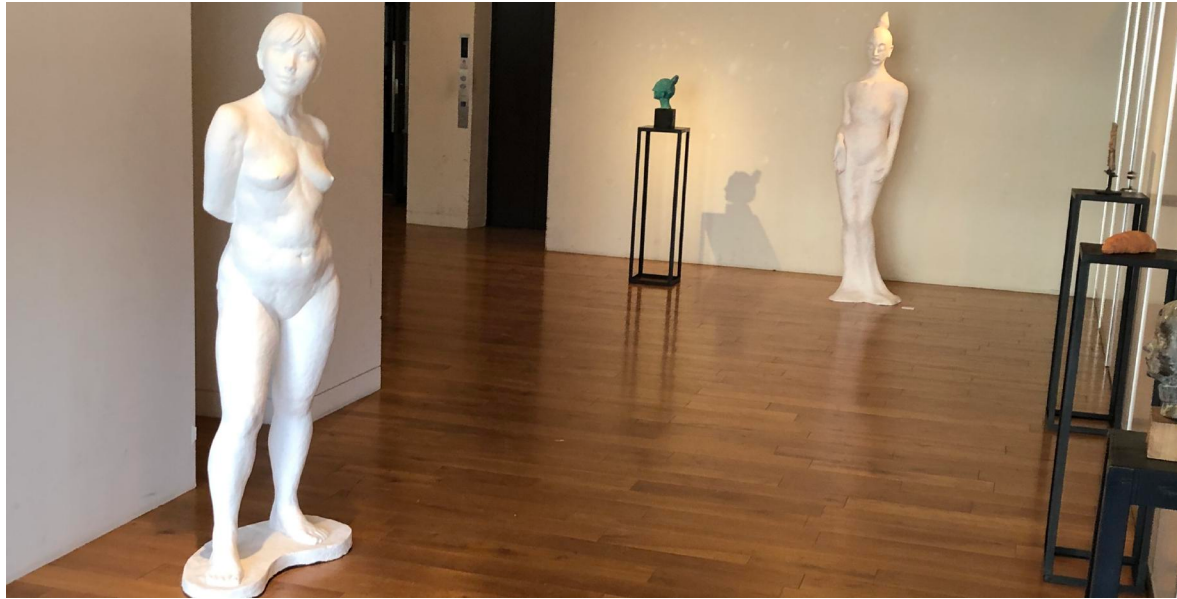
仲間と一緒にユ～ラユラ

色とりどりのユ～ラユラ

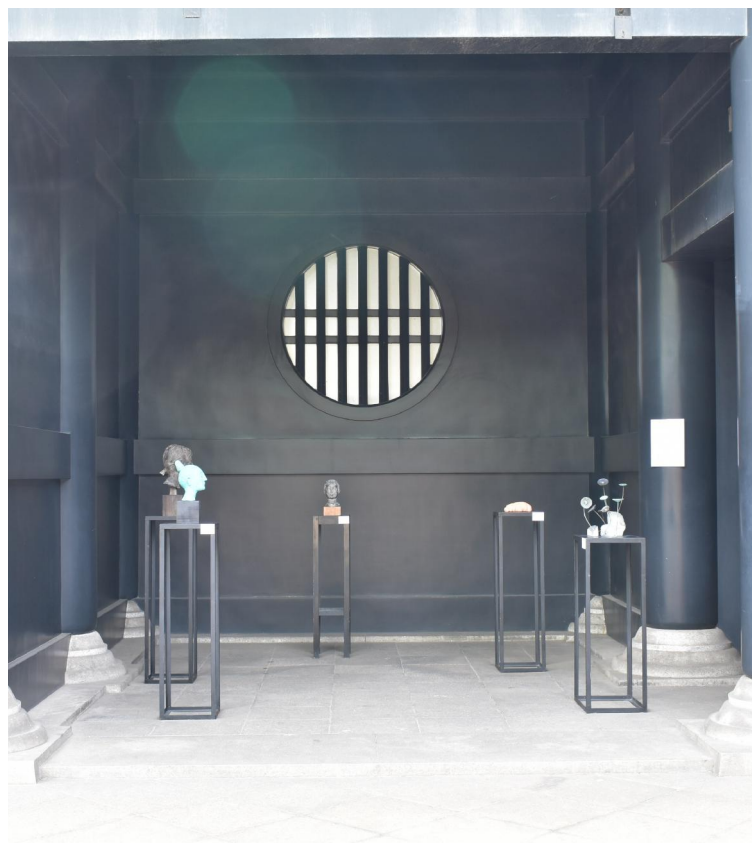


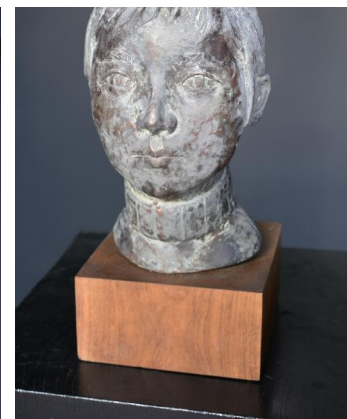
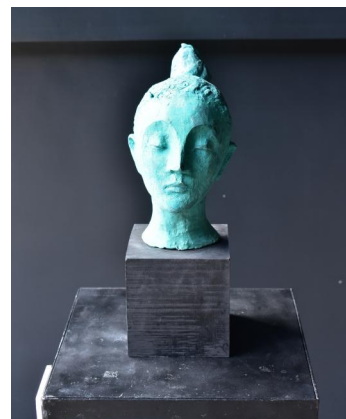
総合研究棟D1Fギャラリー、6A棟2階エントランス 展示風景





湯島聖堂大成殿 展示風景





編集 / 筑波大学芸術系彫塑研究室

ロゴデザイン / 林嘉美

印刷 / ラクスル株式会社

発行 / 筑波大学芸術系彫塑研究室

©2021 筑波大学芸術系彫塑研究室

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1